ATELIER MUJI GINZA
2021

2021年、ATELIER MUJI GINZAでは、「感じ良いくらし」の提案のひとつとして、生活にアートを取り入れてほしいというメッセージを込めたプロジェクトを展開しました。春には『MUJI CONNECTS ART 展』を開催。夏には、芸術祭「東京ビエンナーレ2020/2021」と連携し、無印良品とIDÉEによるアートプロジェクト『Life in Art』の一環として『Life in Art Exhibition』を開催。続いて秋には、期間限定ショップとして『Life in Art Gallery Shop フィリップ・ワイズベッカー 新作ペインティング展』もオープンしました。

またデザインを世界史的な視点で読み解く試みとして、『長く生きる。ウィンザーチェアの場合 展《Windsor Department》の10年』では、歴史的なウィンザーチェアのリ・デザインに関する《Windsor Department》の活動を展示しました。『野生の手仕事と知恵 展』では、文化人類学研究者 山口吉彦氏のコレクションをもとに、自然と共存するアマゾンの先住民のものづくりの知恵を紹介しました。

今年10周年を迎えた無印良品のコンセプトショップFound MUJI 青山の『Found MUJI 展　いいものに巡り会う旅』や福缶プロジェクトの歩みを伝える『無印良品と縁起物 福缶10周年企画 CREATIVE IMAGINATION 展』では、旅をしながら無印良品が発見した世界の日常の道具、日本の郷土玩具を通して、ものづくりの原点に触れ、未来のデザインについて思いを巡らせました。

無印良品のものづくりの思想を伝えるため、巡回展として各地の無印良品で展開した『民藝 MINGEI 生活美のかたち展』では、日本民藝館の協力を得て、大衆の手工芸に宿る用の美を魅せました。昨年から巡回の続く「動詞の森　『MUJI IS』を携えて 展」では、2020年に出版した書籍『MUJI IS 無印良品アーカイブ』で取り上げた15の動詞とともに無印良品の40年間のものづくりを振り返りました。

展覧会のほかにも、オンラインを活用したトークやイベントを通じて、日常の中に豊かさを提案していくこと、ものづくりの思想やヒントに触れる機会を創出してきました。

これらの活動を支えてくださったすべての皆さま、ご来場・ご参加いただいた皆さまに心から感謝を申し上げます。

MUJI HOTEL
GINZA
6
6

目次

MUJI CONNECTS ART 展 9

民藝 MINGEI 生活美のかたち展 19

長く生きる。ウィンザーチェアの場合 展
《Windsor Department》の10年 29

Life in Art Exhibition 39

野生の手仕事と知恵 展 47

Life in Art Gallery Shop
フィリップ・ワイズベッカー 新作ペインティング展 55

Found MUJI展　いいものに巡り会う旅 61

無印良品と縁起物 福缶10周年企画
CREATIVE IMAGINATION 展 71

巡回展 81

展覧会クレジット・イベント一覧 87

グラフィックデザインで見る展覧会 93

MUJI CONNECTS ART 展

ATELIER MUJI GINZA Gallery2

2021年2月26日（金）— 3月14日（日）

無印良品は、生活の基本となるものづくりを通して、ものの本質を見つめ直し、「感じ良いくらし」の探求を続けています。アートとは、生きることそのものの体現であり、無印良品が問い続けるくらしの原点を表現するひとつでもあります。「MUJI CONNECTS ART」は、「感じ良いくらし」の実現を目指す活動のひとつとして、人と人、人と社会がつながり、生活にアートを取り入れてほしいというメッセージを込めたプロジェクトです。

第一弾となる本展では、国内外で活動する4名のアーティストが描き下ろした作品を、フランス・パリのリトグラフ工房「Idem Paris（イデム・パリ）」と協働で制作。無印良品 銀座とネットストアで展示販売しました。（各限定100部）

リトグラフは、職人たちの手作業により、一つひとつ異なる、一点物に近い風合いに仕上がることが魅力です。

くらしの中に取り入れやすいアートでありながら、そこには確かな人の手の痕跡を感じ取ることができます。

社会構造や生活様式が変化しても、人の手から生み出されるアートは私たちに何かを感じるきっかけを与えてくれ、時に人々をつなぎ、支えるものにもなります。

本展が今を生きる私たちにとって、人間本来の生きる力を育み、明るい未来へとつながる機会になれば幸いです。

Idem Paris

100年以上にわたる歴史を持つリトグラフの技術と伝統を受け継ぐIdem Parisは、マティス、ピカソ、ブラック、シャガール、ミロなどの巨匠の時代から、現代美術の作家まで、さまざまなアーティストと協働して作品を制作してきた工房。

MUJI CONNECTS ART特設サイト

https://www.muji.com/jp/feature/connectsart/

野又穫　のまた みのる

1955年東京生まれ。1979年東京藝術大学美術学部デザイン科卒業。1986年に佐賀町エキジビット・スペースで初の個展を開催。絵画、立体、版画、ドローイングなどさまざまな表現方法により、想像上の建造物、建築風景を作品として制作・発表している。

主な展覧会に「カンヴァスに立つ建築-Architecture on Canvas-」（2004年東京オペラシティアートギャラリー）、「もうひとつの場所ー野又穫のランドスケープ / Alternative Sights」（2010年群馬県立近代美術館）、「空想の建築ーピラネージから野又穫へ」（2013年町田市立国際版画美術館）など。

2020年にはWhite Cube（London）で初のオンライン展Minoru Nomata‘Introductions’Online Viewing Roomを開催。

個展のほか、東京銀座資生堂ビル（2001）、パークハイアット東京（2006）などでコミッション・ワークの制作、朝日新聞の「ザ・コラム」にドローイング連載（2011-2015）など。1995年芸術選奨新人賞、2007年タカシマヤ美術賞受賞。

主な作品集として『視線の変遷/Points of View』（2004年東京書籍）、『もうひとつの場所/ALTERNATIVE SIGHTS』（2010年青幻舎）、『ELEMENTS -あちら、こちら、かけら』（2012年青幻舎）などがある。

nomataminoru.com

Paul Cox　ポール・コックス

1959年パリ生まれ。両親はオランダ出身の音楽家。独学でアートを学んだ。
絵画制作が主だが、絵本、舞台美術、ポスターや広告など、活動は非常に幅広い。
多数の絵本を出版しており、日本語にも訳されている「えのはなし」は、ボローニャ国際児童図書展で受賞。
日本でも、クリエイションギャラリー G8で2度、金沢のBUH、東京のパール・ギャラリーにおいて個展を開催。日本での広告は、ルミネのクリスマス広告、北陸新幹線開業の広告を手がけた。

堂本右美　どうもと ゆうみ

1960年パリ生まれ、多摩美術大学美術学部絵画学科卒業後、クーパー・ユニオン芸術学部卒業。95年と99年「VOCA奨励賞」、08年「第19回タカシマヤ美術賞」受賞。90年佐賀町エキジビット・スペース（東京）での初個展以来、国内外の展覧会に多数参加。
主な展覧会に94年「第7回釜山青年ビエンナーレ」（韓国）、01～05年「椿会」資生堂ギャラリー（東京）、04年「第11回アジアン・アート・ビエンナーレ・バングラデシュ」、11年個展「いきる」横須賀美術館（神奈川）、13年「プレイバック・アーティスト・トーク」東京国立近代美術館（東京）など。作品は国立国際美術館、東京国立近代美術館、高松市美術館、広島市現代美術館などに収蔵。パブリックアートに東京ミッドタウン（東京）、GINZA SIX（東京）がある。
yuumidomoto.net

TUSHAR Vayeda(right)　トゥシャール・ワイエダ(右)

1987年インド、ガンジャード生まれ
2014, 3D animation & multimedia .University of Mumbai (Arena Academy)

MAYUR Vayeda (left)　マヨール・ワイエダ(左)

1992年インド、ガンジャード生まれ
2016 MMSin Marketing Management. University of Mumbai
2013 BMS in management studies. University of Mumbai
２人はインドの少数先住民族「ワルリ族」。幼少期、豊かな自然とワルリ族の自然崇拝文化の影響を受けて育つ。
大学は大都市ムンバイに進学するが、毎日片道数時間の通学列車に揺られてもムンバイには引っ越さなかった。
近代文化や都市生活を経験し、ワルリ文化、ワルリアートの素晴らしさに改めて開眼した2人は、大学卒業後もガンジャード村に残り、ワルリ文化、そしてワルリアート継承と発展に尽力している。

www.vayeda.in

MUJI
CONNECTS
ART
Fri, 26 February – Sun, 14 March, 2021
MUJI HOTEL
GINZA

民藝 MINGEI 生活美のかたち展

ATELIER MUJI GINZA Gallery1・2

2021年3月19日（金）— 5月9日（日）

異なる時代に生まれた民藝運動と無印良品は、それぞれが消費社会において、流行や生活様式の変化を受けながら自らの原点に問いを投げかけ続けてきました。この移動展覧会「民藝 MINGEI 生活美のかたち展」は、未来の無印良品に向けた新たな旗を立てるべく、日本民藝館の協力を得て民藝の美に学びながら、これからの道しるべを見出すためのメッセージを創造していく展覧会です。
無印良品はその名のとおり、日用品が主張することなく、日々のくらしのなかに溶け込んでいくように、ものづくりを続けています。台所、居間、洗面所などのどんな場所においても、また日本全国はもちろんのこと、世界中においても、日常に溶け込み、人々の役に立てる存在でありたいと願っています。この展覧会が、無印良品のものづくりに込められた思想を一つひとつじっくり確かめていただける機会になればと考えています。

キュレーターメッセージ

無印良品のことを現代の民芸、あるいは現代の民具だという人がいます。
もちろん製作手段の違いはありますが、製品に作者の名を記さないことや装飾をしない無我で誠実なものづくりの姿勢などに、互いの共通点があると思います。しかもそのものたちは静かに用に即した美を放っています。「民藝（民芸）」は1925年に柳宗悦らが命名した言葉であり、「民衆の工芸」のことを指します。観賞用としての雅な逸品ではなく、大衆に向けて作られた温もりを宿す実用の手工芸品の中に、健全で尋常な美が宿っていることを柳は見出しました。
われわれの日常や生活に寄り添う独自の「ものの美学」を提唱した柳宗悦は、自らが蒐集した17000点に及ぶ民藝品とその美学を多くの人々と共有したいと願い、1936年に日本民藝館を設立しました。日本民藝館は未だその美学を発信する民藝運動の基地として存在しています。
一方の無印良品は、印のついたマーケティング戦略に基づいたものづくりに抵抗し、質素で豊かな真の価値を目指して1980年に設立されました。
それはプロダクトによる現代の民藝運動と言えるかもしれません。人々が心の奥底で大切に思っている、平和で何気ない日常の生活に寄り添って行くこと。日本民藝館も無印良品もそのこころは変わらないと思います。美を生み出す力の源泉たる「民藝」。そのエッセンスを紹介する「民藝 MINGEI 生活美のかたち展」が、未来に向けたものづくりへの試金石となれば幸いです。

日本民藝館館長　深澤直人

「民藝　MINGEI 生活美のかたち展」特設サイト
https://www.muji.com/jp/feature/mingei/

白磁には独特の淡い青みがかった美しさと優しさがある。
シンプルで美しい。
With its unique pale blue, soft beauty,
porcelain is lovely in its simplicity.
日常の道具がなぜこれほどまでに新鮮な思なのであろうか、
しかも人の体に沿って柔らかい。
The design of everyday tools strikes us as innovative and new,
and subtly suits the human form.
ただ純粋に持ちやすい取っ手がそのものの表情になっている。
形から入るのではなく、使い勝手から入る方がデザインが素直に美しい。
Craftsmanship embodied simply in natural, comfortable handles.
Designs of such honest beauty start with function rather than form.

素直に作った道具の形が妙に愛らしいのはなぜだろう？
これを「したしみやすさ」と言うに違いない。
What is it that we find so delightful about tools crafted in such an unassuming way? This is the very definition of what it is to be "people-friendly".
植物を原材とした道具や入れ物は、とても優しく心惹かれる。
そこに普遍がある。
Tools and baskets made from plant materials are gent
Their appeal is universal.
紙、陶器、ガラス、竹、藁などの自然物からものを生み出すという試みこそ、
エコロジカルである。
The idea of creating something from a natural material
—paper, ceramic, glass, bamboo, straw—is,
by its very nature, ecological.
アニミズムという信仰は民藝にも強く表れている。
自然と手を伸ばし触りたくなるような、
迎えにいくようなニュアンスをもっている。
Animism is also devoutly expressed in *mingei*.
There is something about this that naturally invites
one to reach out and touch these pieces.
祈りや願いを形にすると、作る人々の魂がそのものに宿る。
柳はその純粋無垢な愛の形に触せられたに違いない。
When hopes and prayers take a tangible form,
the soul of the craftsperson dwells in the object.
Yanagi was clearly fascinated by the purity and innocence of this love.

長く生きる。ウィンザーチェアの場合 展
《Windsor Department》の10年

長く生きる。ウィンザーチェアの場合 展
《Windsor Department》の10年

ATELIER MUJI GINZA Gallery1・2

2021年5月14日（金）— 7月4日（日）

私たちは人生のなかで、
何脚の椅子と出会いそこに腰掛けるのでしょう。

どのような椅子と生活を共にするかは人それぞれ。そして誰もが心のなかに「記憶に残る椅子」を持っているのではないでしょうか。
ATELIER MUJI GINZAでは2019年、『長く生きる。』と題し、〈トーネット〉に代表される曲木椅子の“DNA”の発展を50脚の椅子によって展示しました。そして今年、「長く生きる」椅子のもう一つの水脈である「ウィンザーチェア」に焦点を当て、その世界に魅了された3組のデザイナー、藤森泰司、DRILL DESIGN、INODA+SVEJEが2011年に結成した《Windsor Department》の活動を紹介します。
「ウィンザーチェア」の起源は、17世紀後半のイギリス、ウィンザーとその周辺地域で、庶民の家庭や農家で使う実用的な椅子として指物師たちが作り始めたものと言われています。「厚い木製の座面を基盤として、椅子の脚、スピンドルなどが直接座面に接合された椅子である」とは、ウィンザーチェアの研究家、アイヴァン・スパークスの定義です。言葉での定義はともあれ、その姿を目にすれば「これだ」という懐かしさを喚起する不思議な力を持つ椅子なのです。
《Windsor Department》がスタートしてから2021年で10年。
その活動は、ウィンザーチェアのかたち、空気感、えも言われぬ魅力、「ウィンザー的なるもの」が何かを探る研究会です。そして3組がそれぞれのアプローチで現代に生きるウィンザーチェアを形にしてきました。 一つの椅子の原型を進化させ未来へつなげる「リ・デザイン」に価値を置く活動であることも注目すべき点です。
本展では《Windsor Department》の思考のプロセスを垣間見る資料と模型、実現した計10脚の椅子、さらに過去の先人たちがリ・デザインした歴史的なウィンザーチェアまでを一堂に公開します。
ともするとデザインとは、まったく新たな形を生み出すことだと考えられがちな現代。
一つの椅子の「原型」を、デザイナーの思考（試行）を経由してツリーのように進化させていくという彼らの手法は、私たちを従来の「デザイン」の枠から解き放ち、より持続可能な次元へと連れ出してくれることでしょう。
本展は、かたちに時間や記憶を織り込む「リ・デザイン」の懐かしく新しい工房です。

Windsor Department

Windsor Department は、藤森泰司、DRILL DESIGN、INODA+SVEJE の3組のデザイナーによる活動で、その名のとおり、ウィンザーチェアのデザイン研究会です。この椅子の形式、存在になぜこんなにも惹かれるのか？ということを意識的に探っていく試みを2011年にスタートしました。3組のデザイナーがそれぞれのアプローチで実際に新たなウィンザーチェアをデザインすることで、時代を超えた持続的なデザインの在り方を探っています。

藤森泰司　Taiji Fujimori

家具デザイナー。1991年東京造形大学卒業後、家具デザイナー・大橋晃朗に師事。1992年長谷川逸子・建築計画工房に勤務。1999年「藤森泰司アトリエ」設立。伊東豊雄、山本理顕など多くの建築家とのコラボレーション、プロダクト・空間デザインを行う。近年は公共施設への特注家具から、「arflex」などハイブランドの製品、オフィス、小中学校の学童家具まで幅広く手がける。グッドデザイン特別賞など受賞多数。著書「家具デザイナー 藤森泰司の仕事」（彰国社 / 2019）。
https://taiji-fujimori.com

ドリルデザイン　DRILL DESIGN

林裕輔と安西葉子によるデザインスタジオ。2001年設立。プロダクトデザインを中心に、グラフィック・パッケージ・空間デザインなど、カテゴリーを超えてデザインとディレクションを行う。
これまでに、Canon、MUJI、Camper、Mercedes Benz、TIME & STYLEなど国内外の様々なメーカーにデザインを提供し、東京、シンガポール、ミラノ、パリ、ストックホルムなどの都市で展覧会に出品している。Red Dot Design Award、German Design Award、Good Design Special Award、Design For Asia Award、Wallpaper* Design Award など受賞歴多数。
http://www.drill-design.com

イノダスバイエ　INODA+SVEJE

猪田恭子とデンマーク出身のニルス・スバイエによるデザインチーム。2000年コペンハーゲンにて、イノダ+スバイエ事務所設立。2003年に拠点をミラノに移し、家具、医療機器、スピーカーなどのプロダクトデザイン、また2013年デンマークにて 電気自転車開発会社BIKE2.0を設立、新技術を搭載した新しい電気自転車の研究を続けている。iF DESIGN AWARD金賞、グッドデザイン・中小企業庁長官賞、Seoul Cycle Design Competition 最優秀賞など授賞多数。
http://www.inodasveje.com

Part 1／ウィンザーチェアの過去と現在

ウィンザーチェアという椅子

ずいぶん前に「近代椅子学事始*」という1冊の本を読んで、近代の椅子には4つの源流があることを知りました。「シェーカー教徒の椅子」「ウィンザーチェア」「明の椅子」「トーネットの椅子」の4つです。興味深いことにこの4つの椅子は、それぞれが時間と空間を超え、世界中でリ・デザインが繰り返されています。こういった椅子の原型のようなものが、長い時間をかけてどのように進化してきたのか、なぜ何百年もの間廃れずに生き残ってきたのか、そこにとても個人的な興味がありました。
4つのタイプの中でも、17世紀後半からイギリスの庶民のあいだで作られていたウィンザーチェアは部材数も他の椅子と比べて格段に多く、加工も全て違う角度で穴を開けなければならないなど、あきらかに面倒なつくりの椅子です。この材料も加工も多い形式の椅子が現代まで絶滅せずに生き残っているという事実は、道具の進化という観点から見ると実に不思議で、注目に値します。
現代のデザイナーは基本的に1919年のバウハウスから始まる合理性やシンプリシティーを特徴とするモダンデザインの世界の中でデザインしています。もしくは、無意識に影響を受けていると言っていいでしょう。ウィンザーチェアはバウハウスよりもっと前の時代に誕生し、1700年代の当時の技術（足踏み旋盤を使った丸棒材や手斧で座面をつくる技術）においてはとても合理的なものでした。椅子の歴史上、量産のための分業制が初めて導入されたのもウィンザーチェアで、旋盤職人、座面職人、組立職人など部品ごとに技術が専業化され、モダンデザインの考え方につながる存在だったとも言えます。
しかしその後、加工技術が改良・機械化され、材料の選択肢も増え、より部材が少なく、丈夫で安価な椅子がつくれるようになったにもかかわらず、この形式の椅子がつくり続けられてきたのはなぜでしょう。トーネットの曲木椅子が1800年代に発明され、バウハウスの思想が世界を席巻した後も、なぜこの椅子は絶滅しなかったのでしょうか。それどころかウィンザーチェアは独自の進化を遂げ、背の形状の新しいバリエーションが生まれたりしています。それはこの椅子が淘汰されない「なにか」を持っているとしか言いようがありません。機能性とかロジックを超えたなにかを。それはモダンデザインの思想を超えたもっと根源的なものだと思っています。

*「近代椅子学事始」発行：株式会社ワールドフォトプレス　著者：島崎信／野呂影勇／織田憲嗣

《Windsor Department》
林裕輔（DRILL DESIGN）

Part2 ／リ・デザインという未来へ

気づきのかたち
未来と記憶を繋ぐデザイン

椅子のデザインに取り組むとき、デザイナーはいつも途方もない領域に投げ出される感覚があります。「座る」という自明の理の先に、何を目指すのか？ ということです。それは、素材や製作技術の可能性なのか、使いやすさなのか、あるいは新しい構造を見出すことなのか、彫刻的な美しいフォルムをつくることなのか…おそらく、そのどれもが椅子を新しくデザインするきっかけにはなります。ただ、そうしたこと以外に、何かもっと、椅子という道具が放つ掴みがたい“魅力”があるようにも思うのです。それは、椅子の長い歴史の中から、使い手に受け継がれてきた「記憶の痕跡」のようなものなのかもしれません。
17世紀後半にイギリスで生まれたとされる、ウィンザーチェアという椅子があります。この椅子は、それ自体が誕生した時代の記憶をずっと残したまま、現在もつくられている椅子のひとつです。「Windsor Department」は、そうした「記憶の痕跡」を持つ椅子に、かねてから興味を抱いていたデザイナー 3組により結成されたデザイン研究会です。3組のデザイナーは、ある時、この古い椅子の形式になぜこんなにも惹かれるのか？ということに、ふと疑問を持ちました。この問いはとても大事なことでした。なぜ惹かれるかを考えることは、新しく椅子をデザインする強い理由になるからです。デザイナーにとっての研究とは、直感をきっかけにリサーチした内容を、言葉ではなく形（かたち）にすることです。ゆえに、研究会がスタートしてから約10年、それぞれの方法で「ウィンザー的なるもの」に向き合い、新たなウィンザーチェアをデザインしてきました。
「ウィンザー的なるもの」に明確な答えはありません。しかし、感覚的な部分を形として発見していくことは、デザイナー達に多くの気づきをもたらしました。それはウィンザーチェアという強い形式があったからこそだと思っています。また、デザインを考えるとき、古い／新しいに過度に囚われることなく、もっと持続性のある広い地平へ連れて行ってくれたのも、この試みの大きな収穫でした。
3組のデザイナーの、“気づきのかたち”を体感していただけたら嬉しいです。

《Windsor Department》
藤森泰司

RILL DESIGN
INODA・SVEJE
TAIJI FUJIMORI

1939-1945/第二次世界大戦

Peacock Chair
ウィンザーチェアは脚が棒材でできているので
大きくても圧迫感がでない。
それにしても、この角度でつくったことの自体が発明だ。
[DRILL DESIGN]

Life in Art Exhibition

ATELIER MUJI GINZA Gallery1・2

2021年7月9日（金）— 9月5日（日）

新生Life in Art 最初の展示として開催した“Life in Art Exhibition”。
場所は、無印良品の世界旗艦店である無印良品 銀座。
総勢27組のアーティストが参加。
作品展示に加え、インスタレーションやライブペインティングなど
幅広いアートの可能性を銀座から発信しました。

Life in Art 公式ウェブサイト
https://www.idee-lifeinart.com/

Gallery 1

柚木沙弥郎　Samiro Yunoki（染色家）

柳宗悦が提唱する「民藝」との出会いを機に、芹沢に弟子入りし染色の道を志す。フランス国立ギメ東洋美術館、日本民藝館をはじめ国内外で展覧会を開催。
https://www.samiro.net/index1.html

Gallery 2

下田昌克　Masakatsu Shimoda（イラストレーター／画家）

2011年よりプライベートワークでハンドメイドの恐竜の被り物や立体物を作り始める。著作に「恐竜人間」（パルコ出版）「恐竜がいた」（スイッチ・パブリッシング）など。
http://www.701-creative.com/shimoda/
https://www.instagram.com/shimodamasakatsu/

Life in Art

Life in Art
3F
MAKOO
OGAWA YOHEI
ten en
2F
invisi dir
1F
B1F
BGM LAB.

Life in Art
山口一郎

5

MUJI HOTEL
GINZA

野生の手仕事と知恵 展

ATELIER MUJI GINZA Gallery1

2021年9月10日（金）— 11月7日（日）

かつて山形県鶴岡市にあった「アマゾン民族館」と「アマゾン自然館」に展示・収蔵されていた民族及び生物資料は、2014年に閉館した後も後世へ残すための保護活動が続いています。生活工芸品約8,000点、生物標本・剥製12,000点と、個人収集のレベルをはるかに超えた文化人類学研究者 山口吉彦氏のコレクションは、南米 アマゾン川流域の先住民を中心に、そこに暮らす人々の生活に密着した道具からその土地に生息する生物標本に至るまで、幅広い資料が揃っています。氏が、1970年代から十数年に渡って、“物々交換”など現地の人々との直接のコミュニケーションから集められた品々は、ありのままの文化資源です。

自分たちが生活する周辺で材料を手に入れ、自ら道具を作り、その道具や知恵を使って生きる。そんなアマゾン川流域に住む先住民の人々にも文明社会や環境破壊など大きな変化が降りかかり、民族の伝統や言語の消滅は進行していますが、少数になった今もなお、自然と極めて近い共存生活を続けている人たちがいます。

遠い過去の話や別の世界のことではなく、今日もこの地球で営まれているくらし。そこでは自然との関係や使い手のことを配慮した生きるための道具が作られてきました。それらの道具を作り続けてきた人たちの様々な思いが山口氏のコレクションには込められています。
自然、家族、民族、後世、そしてひとりの人間同士として。どの関係においても他者への慈しみなしでは存在しえません。様々な禍が起きる現在、一層多くの気づきや学びがあるように思われます。

開催に寄せて

物のない時代、自然に囲まれた山形県・鶴岡市で育った幼少期の私にとって、何よりの楽しみは山や川での昆虫採集でした。また、昆虫以外の友達は、本でした。8歳のとき、手にした南米アマゾンの熱帯雨林の冒険記を読み、絶対にモルフォ蝶やヘラクレスオオカブトを自分の手で採りにアマゾンに行くと決めました。その後、留学したフランスの大学で私のアマゾンへの憧れは更に大きく膨れ上がりました。フランスの人類学者レヴィ＝ストロースによる、南米の熱帯雨林で生活を営む先住民（インディオ）の思考の研究に胸を射抜かれたからです。

28歳で足を踏み入れた念願のアマゾンは、想像していた以上に広大でした。深い森の中に多種多様な命が絡み合い、過酷ともいえる環境下で、人間らしく助け合って生きる先住民たちの姿がありました。先住民たちと寝食を共にし、私は彼らが使う数々の道具が「人が森で生きるために必要な魔法が込められた良いもの」であると気付きました。かくして、私は幾度となく奥深い森に住む先住民たちを訪ねては、彼らの生活の道具を物々交換等で収集してきました。そのときは無我夢中でしたが、気付けば集めた民族資料は膨大な数となっていました。

現在、半世紀前に収集したアマゾン資料を眺め、交流を交わした先住民たちの顔を思い浮かべます。電気も水道もない当時の先住民の生活は、現在の日本と比べると不便かもしれませんが、必要なものは森から与えられていたので豊かでした。皆、幸せな顔をしていました。

アマゾンの森は先住民にとって生活の全てで、同時に森が消滅すれば彼らも滅びます。自然と人間の生活の調和の証でもあるアマゾン先住民の品々は、パンデミックや自然災害に悩まされる近代社会に住む私たちに語りかけます。そのメッセージを伝達することが私に残された最後の使命です。自然を搾取し征服するのではなく、共に存在する道を選んできた先住民の知恵から、私たちにも共通する「人間らしさ」と「豊かさ」を見出していただければ何よりです。

山口吉彦

山口吉彦（文化人類学研究者）

1942年山形県鶴岡市生まれ。1967年頃からフィールドワークを始め、アジアやアフリカなど85ヵ国をまわる。1971年からアマゾン流域の調査を開始。帰国後、地元鶴岡市で国際理解と交流促進に尽力し、アマゾン民族館の館長を務めた。2005年には鶴岡市市政功労者表彰を受ける。一般社団法人アマゾン資料館顧問。
昆虫好きの少年が最初に憧れたのは、アマゾンの森の巨大なカブトムシや輝く青いモルフォ蝶のいる”昆虫王国”でした。その後、フランス留学中にレヴィ・ストロースのフィールドワークに魅了された氏は、アマゾンに住む先住民の生活や文化にも深い興味を持ち、夢をさらに膨らませ、40年以上にわたり、アマゾンの自然と文化、その調和に関する調査・研究・資料収集を行っています。

アマゾン資料館

山形県鶴岡市出身在住の文化人類学研究者　山口吉彦が、南米アマゾンで生涯をかけて集めた民族・自然資料を活用する一般社団法人アマゾン資料館です。収集した資料を最良の状態で保存するとともに、一般公開し、講演会や資料の貸し出しを通して、アマゾンの魅力を広く発信することを目的に活動しています。
公式WEBサイト：https://amazon-resources.org/

Life in Art Gallery Shop

フィリップ・ワイズベッカー
新作ペインティング展

Life in Art Gallery Shop
フィリップ・ワイズベッカー 新作ペインティング展

ATELIER MUJI GINZA Gallery2

2021年9月15日(水) ―11月7日(日)

無印良品 銀座6F ATELIER MUJI GINZA Gallery 2に、Life in Art Gallery Shopが期間限定でオープンしました。
「暮らしの中でアートを愉しむ」をテーマに、多種多様なアート作品をはじめ、アートブック、レアポスターなどを取り揃えました。
さらにショップ内では、フランス人アーティスト フィリップ・ワイズベッカーの新作ペインティング作品を展示販売しました。
家具をモチーフにデフォルメされた独特な世界観をぜひご覧ください。

フィリップ・ワイズベッカー / Philippe Weisbecker
1942年生まれ。1966年フランス国立高等装飾美術学校(パリ)卒業。1968年ニューヨーク市に移住し、活動を始める。アメリカの広告やエディトリアルのイラストレーションを数多く手がけ、並行してアートワークも制作し、2006年フランスに帰国。
日本との縁も深く、東京では2000年にクリエイションギャラリー G8にて初個展を開催。2002年、アンスティチュ・フランセ日本が運営するアーティスト・イン・レジデンス、ヴィラ九条山(京都)に4か月間滞在。2021年には公益財団法人竹中大工道具館でも個展を開催している。
現在はパリを拠点に活動し、欧米や日本で作品の発表を続けている。広告の仕事も多く、JAGDA、NYADC、クリオ、東京ADC、カンヌライオンズなど、国内外で受賞。東京オリンピック2020の公式ポスターも手がけている。
著書に『Philippe Weisbecker Works in Progress』(パイ・インターナショナル、2018年)、『フィリップ・ワイズベッカーの郷土玩具十二支めぐり』(青幻舎、2018年)、『HAND TOOLS』(888ブックス、2016年)、『INTIMACY』(ハモニカブックス、2013年)、『ACCESSOIRES』(ハモニカブックス、2011年)などがある。
https://bureaukida.com/philippe-weisbecker/

Ballet

Found MUJI展
いいものに巡り会う旅

Found MUJI展　いいものに巡り会う旅

ATELIER MUJI GINZA Gallery1・2

2021年11月12日（金）— 12月12日（日）

東京 青山にFound MUJI Aoyamaが誕生して、10年が経ちます。
Found MUJIでは、これまでに30以上の国や地域を訪れ、その土地その土地の生活や文化に触れ、日常の道具や手仕事、その地特有の技術を探してきました。「見出されたMUJI」と名付けられたこの活動は、世界の細部にまで入り込み、よいものを見つける旅を現在も続けています。
道端のベンチ、軒先に干されたモップ、屋台で使われているアルミのレンゲ。それらどれもが、その土地で当たり前のように使われている道具たちばかりです。
私達の日常も同様に、たくさんのものがいつでもあるかのように存在しています。それらのものは、はたしてどんなきっかけでいつから使われ始めたのでしょうか。どこで出会ったものだったでしょうか。なぜずっと近くに置いているのでしょうか。
普段からある、生活の道具/日用品に改めて目を向けてみると、なぜ惹かれるのか、心躍るのか、いとおしいのか、が見えてくるはずです。まずは身近なものから愛でてみる、そこからよいものを探す目を磨く、そのきっかけを探してみませんか。

無印良品はどこにでもよくある良い品を探し、それらに印を付けずに販売する活動からはじまりました。そこに見出された品々には、愛が籠っていました。作り手の愛かもしれません。探し手の愛かもしれません。印のない飾らないものたちは、多くの人々に共感を与えました。「これでいいんだ」という納得感です。この活動の根本的な思想は、Found MUJIという言葉に置き換えられ、ものづくりの手がかりとなっていきました。ただなんでもシンプルに、印を付けずに、というだけではない愛の籠った良品作りの手本となっていきました。いいものを見つけた瞬間は、まさに「巡り合い」であり、偶然のなすところも多いです。その「巡り合い」を求めて世界中を旅する活動をはじめてもう10数年になります。いいものと巡り合えた時、私たちは嬉しくなります。「ああ！またMUJIを見つけた」と。Found MUJIという活動はいいものと巡り合えた喜びを共有することです。
この展覧会は、世界中から集められた魅力的なものの中から選りすぐった名品を、ご覧いただくものです。その飾らない魅力のエッセンスを見出してください。

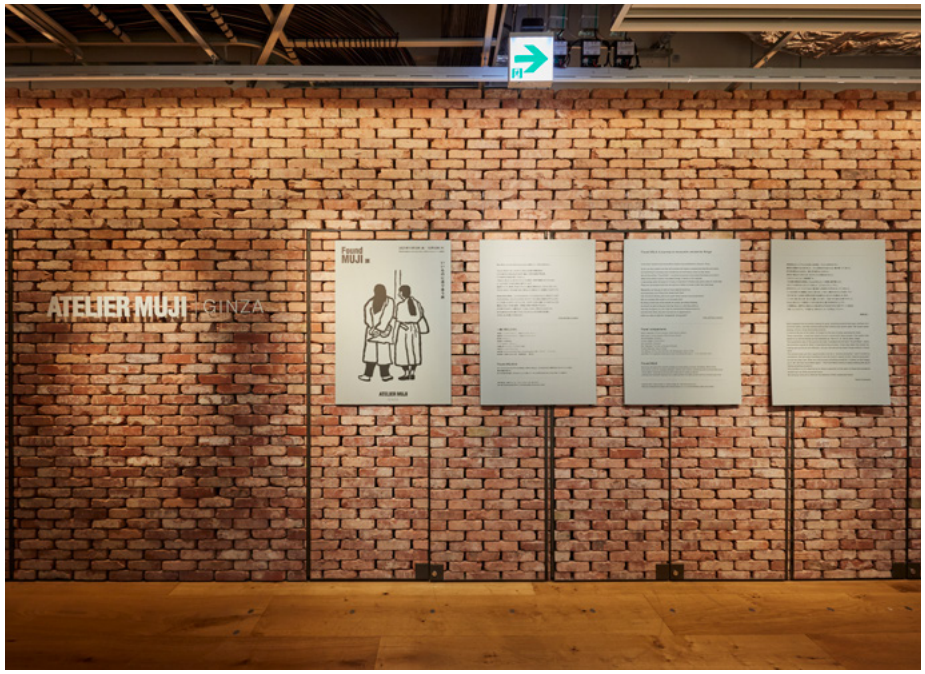
深澤直人

Found MUJIとは

永く、すたれることなく生かされてきた日用品を、世界中から探し出し、それを生活や文化、習慣の変化に合わせて少しだけ改良し、適正な価格で再生する。 良いものを探す目を磨き、そのもののエッセンスを残しつつ、それらを現代の生活に合わせて仕立て直していく活動です。

Found
MUJI 展
いいものに
巡り会う旅

Found
MUJI 展
いいものに
巡り会う旅


ATELIER MUJI GINZA
Found MUJI

無印良品と縁起物 福缶10周年企画
CREATIVE IMAGINATION 展

無印良品と縁起物 福缶10周年企画
CREATIVE IMAGINATION 展

ATELIER MUJI GINZA Gallery1・2

2021年12月17日（金）— 2022年2月20日（日）

無印良品では、2011年から地域に根付いた郷土玩具の面白さを多くの方へ届けるために、日本の縁起物として福缶に入れて紹介してきました。
郷土玩具は古くから作物の豊かな実りや子どもたちの健やかな成長を祈願したり、祖先崇拝や土地に残る信仰の対象など、日本の風土や暮らしの中から生まれた想いをかたちにし、文化的背景を含みながらも愛らしさを忘れず、今でも人々に親しまれています。
今年で10周年を迎えた福缶プロジェクトは、引き続き各地域で制作を続けている郷土玩具のつくり手たちと親交を深めながら、この節目を機会に日本文化に根ざしたこのチカラの原点に立ち戻り、改めて郷土玩具を生み出す無為なものづくりが持つ豊かさについて、皆様と共に再考したいと思います。
本展「CREATIVE IMAGINATION」は、ただ消費されていくだけではない、シンプルでピュアな原動力に未来のものづくりへの可能性やヒントを発見する展覧会です。
新たな思考へと促す一助となれば幸いです。

福缶とは？

2012年のお正月以来、無印良品の初売りに合わせて販売している缶詰のこと。
缶詰と言っても、食べ物ではありません。
日本各地でつくられた、縁起物と呼ばれる郷土玩具が一点、
郷土玩具の歴史や由来などを紹介したリーフレットが一冊、
全国の無印良品で使えるギフトカードが一枚という、
ハズレがなくて「福」のある内容となっています。

福缶はもともと、2011年の東日本大震災がきっかけで生まれました。
当時、被災地に対して様々な復興支援が行われている中、私たちに芽生えたのは、
「地域の魅力を伝えることで、長期的に復興を応援できたら」という思い。

まずは、被災の爪痕が残っていた青森、岩手、宮城、福島へ足を運びました。
ものづくりの現場を自分たちの目で確かめ、作家さん一人ひとりの思いに耳を傾けながら、
ささやかであっても未来に伝えたいもの、
魅力を知ることで地域に行きたくなるようなものを選んできました。

それから毎年少しずつ、日本各地を巡りながら、
一つ、また一つと選んできたものを缶に詰めて販売しています。

おかげさまで10年目という節目を迎えることができました。
改めて、今まで福缶として関わってくれた縁起物たちのお披露目と、
10年間支えてくれた作り手の皆様の営みをお伝えします。

福缶 担当者一同

CREATIVE IMAGINATION
MUJI and Lucky Charms "Fuku Can" 30th anniversary exhibition
CREATIVE IMAGINATION
Friday, December 17, 2021 to Sunday, February 20, 2022
ATELIER MUJI GINZA

武久守商店

動詞の森　『MUJI IS』を携えて 展

2020年無印良品40周年を記念して出版された書籍『MUJI IS　無印良品アーカイブ 』。
無印良品の一品一品がどういう思いで作られたかを「15の動詞」で整理しました。
本展では、本書と連動し、15の動詞とともに商品や活動を紹介しました。

[巡回先一覧]
2020年10月16日(金) — 2021年2月21日(日)
無印良品 銀座 ATELIER MUJI GINZA

2021年7月20日(火) — 9月26日(日)
無印良品 直江津 Open MUJI

主催 | 株式会社良品計画
企画協力 | くらしの良品研究所
空間構成 | トラフ建築設計事務所
グラフィックデザイン | 倉地亜紀子
施工 | 東京スタデオ
キュレーション | 鈴木潤子

2021年10月30日(土) — 12月12日(日)
秋田県 美郷町 学友館

美郷町学友館特別展
「美術／中間子 小池一子の仕事と MUJI IS-動詞の森- 展」
主催 | 美郷町 美郷町教育委員会
特別協力 | 株式会社キチン、株式会社良品計画
空間構成 | トラフ建築設計事務所
グラフィックデザイン | 倉地亜紀子
施工 | 東京スタデオ
コーディネーション | 鈴木潤子

無印良品 直江津 Open MUJI

秋田県 美郷町 学友館

秋田県 美郷町 学友館

民藝 MINGEI 生活美のかたち展

無印良品が、日本民藝館の協力を得て民藝の美に学びながら、これからの道しるべを見出すためのメッセージを創造していく展覧会として開催しました。

［巡回先一覧］
2021年1月16日（土）— 3月7日（日）
無印良品 直江津 Open MUJI

2021年3月19日（金）— 5月9日（日）
無印良品 銀座 ATELIER MUJI GINZA

2021年10月8日（金）— 11月28日（日）
無印良品 広島パルコ Open MUJI

2021年12月3日（金）— 2022年1月30日（日）
MUJI キャナルシティ博多

主催｜株式会社良品計画
特別協力｜日本民藝館
企画キュレーション｜深澤直人
施工｜HIGURE 17-15 cas
グラフィックデザイン｜東川裕子

無印良品 銀座 ATELIER MUJI GINZA

無印良品 直江津 Open MUJI

無印良品 広島パルコ Open MUJI

MUJI キャナルシティ博多

MUJI CONNECTS ART 展

会期｜2021年2月26日（金）―2021年3月14日（日）
会場｜無印良品 銀座 6F ATELIER MUJI GINZA Gallery2　入場無料
主催｜株式会社良品計画
企画協力｜小池一子
グラフィックデザイン｜菊地敦己
施工｜HIGURE 17-15 cas

デザイン・サイクリングマーケット Vol.3 – Connect feelings

「Connect」をテーマに、IDÉEや無印良品に繋がりのあるクリエイターやショップオーナー、無印良品・IDÉEスタッフたちが愛着の品々を次につなげる全3回のマーケットを開催しました。

開催日時：2021年2月27日（土）・3月6日（土）・3月7日（日）11:00-18:00
会場：無印良品 銀座6F ATELIER MUJI GINZA Lounge
出店者：
中原慎一郎（ランドスケープ・プロダクツ ファウンダー /プロデューサー）
冷水希三子（料理家）
谷俊介（on the shore 店主）
作原文子（インテリアスタイリスト）
大島忠智（IDÉEディレクター）
無印良品デザインチーム
IDÉEクリエイションチーム

Coffee for you

「Connect」をテーマに、寄付いただいた本やモノをもらうお礼に、この後ここに訪れる誰かのために一杯のコーヒーをおくる、新しい取組みです。

開催日時：2021年2月26日（金）― 3月14日（日）
会場：無印良品 銀座6F ATELIER MUJI GINZA Shop
提供協力：小池一子、原研哉、深澤直人、須藤玲子、堂本右美、中原慎一郎、冷水希三子、VALUE BOOKS、森岡書店、清水屋商店、金井政明（株式会社良品計画）、株式会社良品計画 社員有志

民藝 MINGEI 生活美のかたち展

会期｜2021年3月19日（金）―5月9日（日）
会場｜無印良品 銀座 6F ATELIER MUJI GINZA Gallery1・2　入場無料
主催｜株式会社良品計画
特別協力｜日本民藝館
企画キュレーション｜深澤直人
施工｜HIGURE 17-15 cas
グラフィックデザイン｜東川裕子

オンラインギャラリーツアー「民藝 MINGEI 生活美のかたち展」

展示にご協力いただいている日本民藝館の学芸部長杉山享司さんに日本民藝館についてのことやお客様からよく質問を受ける展示品についてお話しいただきました。

公開日時：2021年 5月4日（火）
会場：オンライン配信【公式You Tube】
ゲスト：杉山享司（日本民藝館学芸部長）
視聴URL：https://youtu.be/pSIn5FVZrbw

長く生きる。ウィンザーチェアの場合展《Windsor Department》の10年

会期｜2021年5月14日（金）―7月4日（日）
会場｜無印良品 銀座 6F ATELIER MUJI GINZA Gallery 1・Gallery2　入場無料
主催｜株式会社良品計画
企画協力｜《Windsor Department》藤森泰司、DRILL DESIGN、INODA+SVEJE
空間デザイン｜藤森泰司（Gallery2）、DRILL DESIGN（Gallery1）
グラフィックデザイン｜田部井美奈
展示品協力｜一般財団法人 家具の博物館、タイムアンド　スタイル、有限会社かねみつ漆器店、カリモク家具株式会社、株式会社桜製作所、株式会社ダニエル、スカンジナビアンリビング、SITURAERU

---

①《Windsor Department》インタビュー それぞれの「長く生きる。」椅子のはなし

ここでは、ATELIER MUJI GINZAの展示ではお伝えしきれなかった、彼らの思いやモノづくりの背景について語りつくしていただきました。椅子の原型の一つとも言われるウィンザーチェア。「長く生きる」椅子のかたちの裏に隠された、人とものの メッセージをお届けしました。

公開日時：会期中随時・全3回
話し手：藤森泰司、DRILL DESIGN（林裕輔、安西葉子）、INODA+SVEJE（猪田恭子、ニルス・スバイエ）
聞き手：田代かおる（本展担当キュレーター）

インタビュー記事URL一覧
藤森泰司の場合: https://atelier.muji.com/jp/exhibition_list/3379/
ドリルデザインの場合: https://atelier.muji.com/jp/exhibition_list/3460/
イノダ+スバイエの場合: https://atelier.muji.com/jp/exhibition_list/3532/

②オンラインギャラリートーク「長く生きる。ウィンザーチェアの魅力とは?!」

会場へお越しいただけない方のために、ギャラリーツアーをオンライン配信しました。

公開日時：2021年6月18日（金）18:30-
会場：オンライン配信【公式Instagram・インスタグラムライブ】
ゲスト：林裕輔（DRILL DESIGN）
モデレーター：田代かおる（本展担当キュレーター）
視聴URL：https://www.instagram.com/tv/CQQmHoHK9Xp/

Life in Art Exhibition

会期｜2021年7月9日（金）―9月5日（日）
主催｜株式会社良品計画（IDÉE Life in Artプロジェクト事務局）
参加アーティスト｜ 柚木沙弥郎、下田昌克、krank、Ph.D.、山根大典、山田一成、瀬戸優、中村大介、村松恵（ANIMA FORMA）、coricci、駒形克己、松林誠、MAKOO、林青那、山瀬まゆみ、OGAWA YOHEI、尾原深水、ten en、山口一郎、rétela、invisi dir、及川真雪、尾関立子、伊藤昊、彦坂木版工房、BGM LAB.、粟辻博

『野生の手仕事と知恵』展

会場｜無印良品 銀座6F ATELIER MUJI GINZA Gallery1　入場無料
会期｜2021年 9月10日（金）— 11月7日（日）
主催｜株式会社良品計画
協力｜一般社団法人 アマゾン資料館、株式会社 マザーディクショナリー、日知舎
グラフィックデザイン｜SARAVAH design
施工｜HIGURE 17-15 cas

野生の手仕事と知恵 展　オープニングトーク

本展にご協力いただいている山口吉彦さんに、南米 アマゾン川流域に行こうと思ったきっかけや、先住民族との交流についてお話を伺いました。

公開日時：2021年9月17日（金）20:30-21:30
登壇者：山口吉彦（文化人類学研究者）、
山口考彦（一般社団法人 アマゾン資料館　代表理事）
モデレーター：成瀬正憲（山伏、日知舎）
視聴URL：https://atelier.muji.com/jp/event/3860/

野生の手仕事と知恵 展 オープニングトーク〈続編〉

9月17日（金）に開催したインスタライブの続編を配信。前回のトークイベント開催中にいただいた質問へのご回答と、山口吉彦さんがアマゾンに実際に行かれた時のお話を中心に伺いました。

公開日時：2021年10月22日（金）18:30-
登壇者：山口吉彦（文化人類学研究者）、
山口考彦（一般社団法人 アマゾン資料館　代表理事）
モデレーター：成瀬正憲（山伏、日知舎）
視聴URL: https://atelier.muji.com/jp/event/4032/

野生の手仕事と知恵展　コラム

山口吉彦さんと同じ山形県鶴岡市在住の成瀬正憲さんに、山口さんへ取材、そして本コラムを執筆いただきました。

前編: https://atelier.muji.com/jp/exhibition_list/3980/
中編: https://atelier.muji.com/jp/exhibition_list/4100/
後編: https://atelier.muji.com/jp/exhibition_list/4115/

Life in Art Gallery Shop フィリップ・ワイズベッカー 新作ペインティング展

会期｜2021年9月15日（水）— 11月7日（日）
会場｜無印良品 銀座 6F ATELIER MUJI GINZA Gallery2　入場無料
主催｜株式会社良品計画（IDÉE Life in Artプロジェクト事務局）
企画協力｜櫛田理（株式会社EDITHON）、貴田奈津子（Bureau Kida）
施工｜HIGURE 17-15 cas

Life in Art Gallery Shop フィリップ・ワイズベッカー新作ペインティング展 関連トーク

特別に新作をご用意くださったフィリップ・ワイズベッカー氏やその他作品を展示させていただいている参加アーティストの皆様のお話、アートブックやアートポスターのことなど、『Life in Art Gallery Shop』の魅力をたっぷりお伝えしました。
視聴URL: https://atelier.muji.com/jp/event/4038/

Found MUJI展 いいものに巡り会う旅

会期｜2021年11月12日（金）—12月12日（日）
会場｜無印良品 銀座 6F ATELIER MUJI GINZA Gallery1・2　入場無料
主催｜株式会社良品計画
協力｜深澤直人、須藤玲子、皆川明、長尾智子、ハッリ・コスキネン、中原慎一郎、作原文子、松尾由貴、新田理恵（順不同）
空間デザイン｜ya
グラフィックデザイン｜6D

ギャラリートーク「Found MUJIと旅」

2011年 のFound MUJI青 山 開 店 当 初 か らFound MUJIに関わっていただいている、スタイリストの作原文子さんに過去一緒に旅をした『Found MUJI with IDÉE Denmark』について、当時を思い出していただき、お話しを伺いました。作原さんが思うFound MUJIについてもお話ししていただきました。

公開日時：2021年12月5日（日）21:00-
登壇者：作原文子（インテリアスタイリスト）
視聴URL: https://www.instagram.com/tv/CXGhDQBqwi7/

無印良品と縁起物 福缶10周年企画『CREATIVE IMAGINATION』展

会期｜2021年12月17日（金）—2022年2月20日（日）
会場｜無印良品 銀座6F ATELIER MUJI GINZA Gallery1・2　入場無料
主催｜株式会社良品計画
展示品協力｜高橋はしめ工房、つつみのおひなっこや、本郷だるま屋、Good Job! センター香芝、水野佳珠、円空洞、農事組合法人 五箇山和紙、とやま土人形伝承会、（株）中島めんや、木地処さとう、野沢民芸品製作企業組合、元祖笹野一刀彫 鷹山、有限会社民芸処番匠、小田島民芸所、工房千想、阿保正志、とさ民芸店 ちゃまみギャラリー、草流舎、有限会社　武久守商店、木の葉猿窯元、江口人形店、高柳政廣、佐賀一品堂、玩具ロードワークス、白河だるま総本舗（順不同）
制作協力｜川﨑富美、武田道生、SARAVAH design、HIGURE 17-15 cas、（株）torinoko
Special thanks｜福缶に関わって下さった全ての皆様

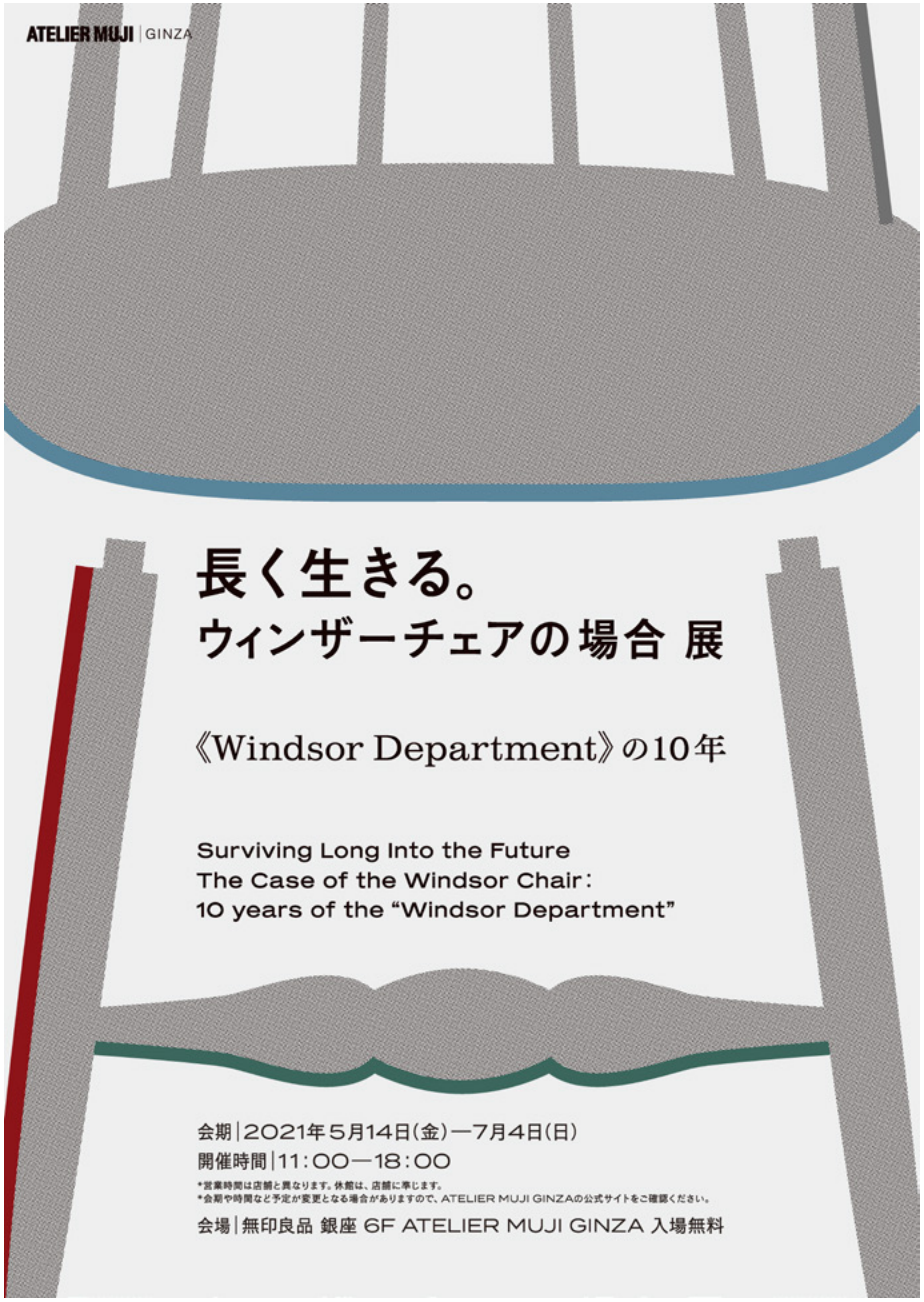
ギャラリートーク「郷土玩具に魅せられて」

展示では収まりきらなかったものづくりや作家、郷土玩具の裏話など、本展をより深掘りするトークイベントを行います。 日本各地にある郷土玩具に魅せられ全国を巡りに巡った新旧福缶担当者、本展企画担当者によるここでしか聞けない話を展開しました。

公開日時：2022年1月13日（木）20:00-
登壇者：川﨑富美（プロダクトデザイナー・元福缶担当）、株式会社良品計画 企画デザイン室 福缶チーム：小山裕介（デザイナー）、斎藤大輝（デザイナー）、丁野博行（デザイナー）、永田貴大（本展覧会キュレーター）
視聴URL: https://atelier.muji.com/jp/event/4232/

MUJI
CONNECTS
ART
Fri, 26 February – Sun, 14 March, 2021
Gallery 2
ATELIER MUJI | GINZA

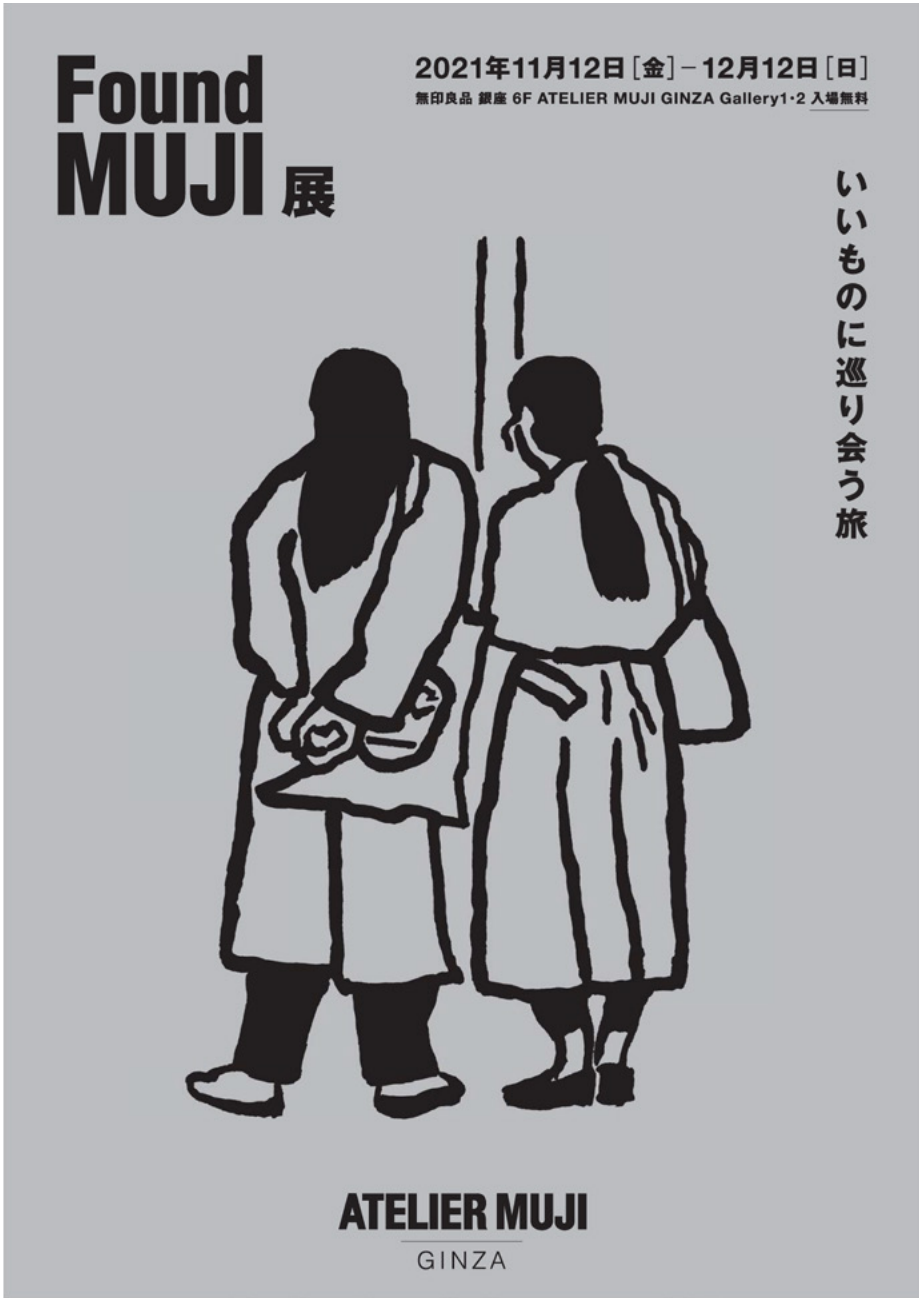
民藝
MINGEI
生活美のかたち展
無印良品
日本民藝館
2021年
3月19日(金)－5月9日(日)
10:00-21:00
無印良品 銀座 6F
ATELIER MUJI GINZA
入場無料


ATELIER MUJI | GINZA
長く生きる。
ウィンザーチェアの場合 展
《Windsor Department》の10年
Surviving Long Into the Future
The Case of the Windsor Chair:
10 years of the "Windsor Department"
会期|2021年5月14日(金)—7月4日(日)
開催時間|11:00—18:00
*営業時間は店舗と異なります。休館は、店舗に準じます。
*会期や時間など予定が変更となる場合がありますので、ATELIER MUJI GINZAの公式サイトをご確認ください。
会場|無印良品 銀座 6F ATELIER MUJI GINZA 入場無料

Life in Art Exhibition
2021.7.9 fri ~ 9.5 sun
Life in Art
Concept
Life in Artは、インテリアブランドIDÉEが2011年にスタートした、
日常芸術をテーマにアート(=文化)を広げるプロジェクト。
これまで有名無名、時代性、国内外関係なく、
クリエーションに共感するアーティストの作品紹介から、
展示会、コラボレーション作品まで、幅広い取り組みを行ってきました。
それから10年後の2021年。
環境や社会が急激に変わり、これまでの生活を見直すときが訪れています。
私たちは生きていく中で何を選び、何を大事にして、どのように生きていくか。
そこで、私たちはこれからの時代にあらためて
「アートのある暮らし」を唱えます。
アートは人の心を動かし、人の美意識をかえます。
美意識がかわれば、生活の質もかわります。
生活の質がかわれば、自分にとって、家族にとって、地域にとって、
社会にとって、環境にとって、より良い世界が訪れると考えています。
アートは生活をはぐくむ。
これからのLife in Artがはじまります。

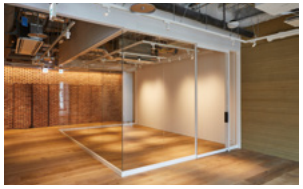
野生の手仕事
と知恵 展
"Wild Handicrafts and Wisdom" Exhibition
2021年 9月10日（金）－11月7日（日）
11:00－20:00（営業時間・休館は、店舗に準じます。）
無印良品 銀座 6F ATELIER MUJI GINZA Gallery1 入場無料
ATELIER MUJI | GINZA Gallery 1

WEISBECKER
ATELIER MUJI | GINZA
Life in Art GALLERY SHOP
Philippe Weisbecker *Exhibition* | 2021.9.15 wed ~ 11.7 sun


Found
MUJI 展
2021年11月12日［金］－12月12日［日］
無印良品 銀座 6F ATELIER MUJI GINZA Gallery1・2 入場無料
いいものに巡り会う旅
ATELIER MUJI
GINZA

無印良品と縁起物 福缶10周年企画
CREATIVE
IMAGINATION 展
会期｜2021年12月17日（金）－2022年2月20日（日）
※営業時間・休館は、店舗に準じます。
※会期や時間など予定が変更になる場合がありますので、ATELIER MUJI GINZAの
公式サイトをご確認ください。
開催時間｜11：00 － 21：00
開催場所｜無印良品 銀座 6F ATELIER MUJI GINZA Gallery 1・2 入場無料
ATELIER MUJI | GINZA Gallery 1・2

無印良品 銀座 6F
ATELIER MUJI GINZA
フロアマップ

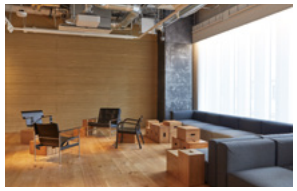


①Gallery

ものづくりやデザインにまつわる展示を行う2つの展示空間「Gallery1」、「Gallery2」。この2つのGalleryはそれぞれ年に3回から4回ほど企画を変えながら、ものづくりやデザインにまつわる展覧会を開催。
展覧会を通じて、多様な意見や価値観を共有し、行動することによってつくられる未来を考えていきます。

②Salon

大きな楠のバーカウンターと、ゆったりとくつろげるテーブル席が並ぶ「Salon」。厳選された生産者や作り手によるコーヒーや紅茶、日本茶、また、ここでしか味わえない甘味やカクテルとともに、落ち着いたひとときをお過ごしいただけます。



③Library

「ATELIER」や「Book Design」などのA～Zまでのキーワードをもとに選書された、デザインにまつわる書籍をご覧いただける蔵書スペースです。

④Lounge

様々なイベントを開催する「Lounge」。展覧会にまつわるトークやワークショップ、多様なイベントを通して人とことを繋いでゆきます。

⑤Shop

展覧会に関連したアイテムやSalonで提供している食品や器などを一部販売しています。POP UP WINDOWでは、展覧会の企画に合わせたセレクトの商品などを販売します。

ATELIER MUJI GINZA Archive 2021

主催：株式会社良品計画
企画・運営：株式会社良品計画 企画デザイン室・無印良品 銀座 ATELIER MUJI GINZA
ATELIER MUJI GINZAチーム：大島忠智、田代かおる、永田貴大、片岡義弘、椙山由香、
遠藤紗和見、平松真由子、三浦彰子、島田果奈、前田泰彰
会場撮影：尾原深水
所在地：無印良品 銀座 ATELIER MUJI GINZA
〒104-0061 東京都中央区銀座 3-3-5 無印良品 銀座 6F

ATELIER MUJI GINZA公式ウェブサイト：https://atelier.muji.com/jp
Twitter: @ateliermuji
Instagram: @ateliermuji_ginza

本年報の作成にあたり、ご協力及びご助言いただきましたみなさまに感謝申し上げます。

発行日：2022年3月31日
発行元：株式会社良品計画
〒170-8424 東京都豊島区東池袋4丁目26番3号
発行者：株式会社良品計画 企画デザイン室
編集者：無印良品 銀座 ATELIER MUJI GINZA 椙山由香
冊子グラフィックデザイン：長尾周平

*掲載している方の略歴は開催当時のものを掲載しています。